ポイント７：環状ブロック群の北限を発見

清掃工場内１・２トレンチと道路下１トレンチで検出した石器ブロックは墨古沢南Ⅰ遺跡の環状ブロック群における北限にあたると考えられます。３つのトレンチで計 56 点の石器を検出しました。

清掃工場内２トレンチ検出の石器ブロック

清掃工場内１トレンチ検出の石器ブロック

道路下１トレンチ検出の石器ブロック

ポイント５：第１トレンチ検出の石器ブロック

第１トレンチ検出の石器ブロックは H27 年度に検出した石器ブロックに伴うものだと考えられます。12 点の石器を検出しました。

第１トレンチ検出の石器ブロック

珪質頁岩製石器

ポイント６：第４トレンチ検出の石器ブロック

第４トレンチ検出の石器ブロックは、環状ブロック群の外郭部にあたると考えられます。この場所から石器ブロック群が検出されたため、石器ブロックが北東側でどのように配列するかがわかりました。

ポイント３：環状の内側に分布する石器ブロック

第２トレンチ検出の石器ブロックは H27 年度に検出した石器ブロックと共に、環状ブロック群の内側に分布すると考えられます。本年度の調査では 12 点の石器を検出しました。

第２トレンチ検出の石器ブロック

安山岩製石器

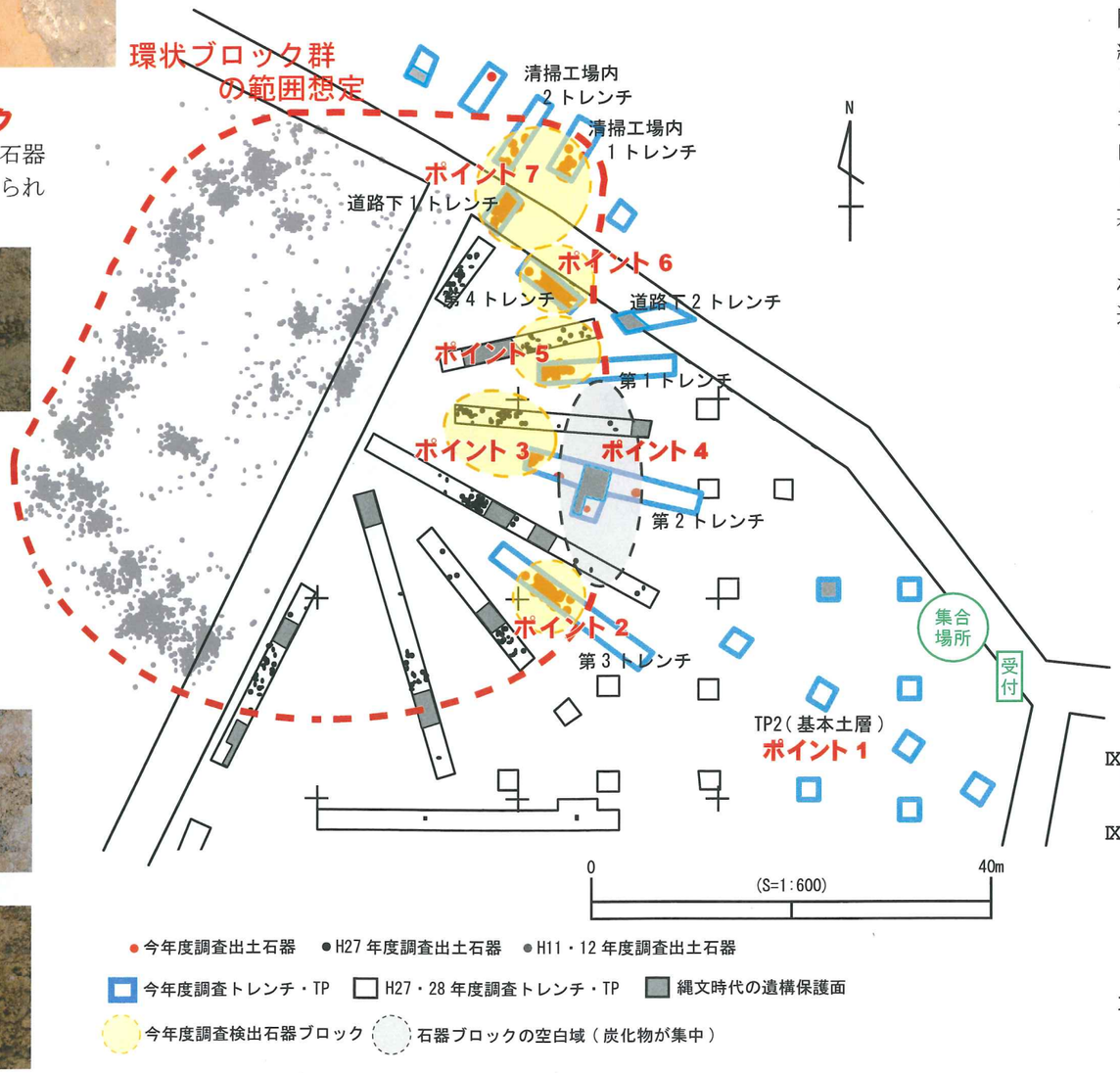
ポイント2：第３トレンチ検出の石器ブロック

第３トレンチから検出した石器ブロックからは安山岩、玉髄（メノウ）、トロトロ石などでできた石器が 41 点発見しました。

今年度調査第３トレンチ検出の石器ブロック

トロトロ石製石器

玉髄（メノウ）製石器

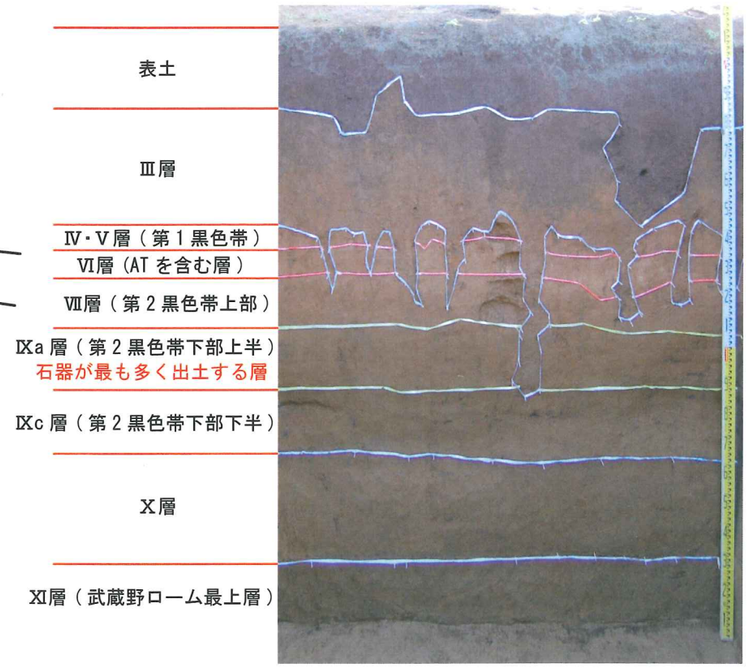


ポイント４：石器ブロックの空白域と炭化物集中

墨古沢南Ⅰ遺跡の環状ブロック群は、外郭部の東側に石器ブロックの空白域が見られます。そして、その空白域から炭化物の集中が見つかりました。この炭化物が何を示すのかはっきりしたことは分かっておらず、今後の課題です。これらの炭化物を顕微鏡で観察した結果、元は針葉樹だということがわかりました。

H27 年度調査により確認した炭化物集中

ポイント１：旧石器時代の遺跡が眠る関東ローム層

旧石器時代は火山活動が活発な時代でした。その火山活動に伴い降り積もった火山灰によって形成された層が関東ローム層です。下総台地では下から古い順に下末吉ローム層、武蔵野ローム層、立川ローム層の順番に堆積しています。日本列島の旧石器時代遺跡は、立川ローム層から発見されます。立川ローム層は富士山や箱根の火山灰によって構成されますが、中には２万 9000 年前に鹿児島県から降灰した姶良・丹沢火山灰（AT）層や火山灰の供給が弱まった時期にできると考えられる黒色帯が見られます。

墨古沢南Ⅰ遺跡の石器は AT を含むⅥ層よりも下の層から発見され、２万 9000 年よりも古い遺跡であるということがわかります。遺跡から発見された炭化物を年代測定にかけた結果３万 4000 年前という結果を得ることができました。層による年代と化学分析による年代から、この遺跡が形成された時期がわかりました。